

一般財団法人 永頼会

松山市民病院について

病院長 山本 祐司



病院概要

- 病院設立 昭和31年6月1日
- 開設者 一般財団法人 永頼会
- 理事長 山本祐司
- 院長 山本祐司
- 副院長 柚木茂、伊勢田徳宏、重見律子
- 特任副院長 水上祐治
- 病床数 432床(稼動410床)
- 常勤医師 常勤医師 92名
- 延床面積 延床面積 25,602.47m² (令和1年7月1日現在)

■ 看護基準 急性期一般入院料4 (10対1看護)

常勤看護職員 302名

■ 病床・病棟内訳

急性期一般 356床 (7病棟:3N~6N、5S~7S)

(小児専用 12床)

ICU (2対1) 6床

HCU (4対1) 8床

地域包括ケア 40床 回復期機能(1病棟:4S)
(13対1)

休床 22床

計 432床 10病棟



病院機能評価更新認定 (一般病院2 3rdG:Ver. 1.0)

診療科目 内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経内科、整形外科、リハビリテーション科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、小児科、形成外科、麻酔科、歯科、放射線科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科、心療内科・精神科、

施設形態 民間病院
病床数 432床
医師数 92名
平均在院日数 17.3日
平均外来数 650名
紹介率 57.2%

施設案内

		病院本館		
		北棟(N棟)	南棟(S棟)	
永頼会館	5階	カルテ管理庫	7階	7S病棟:消化器内科、内科(血液・膠原病・リウマチ、一般)、眼科、無菌室
	4階	院長室 医局・図書室	6階	6N病棟:呼吸器内科、循環器内科、内科(一般)
	3階	医局・医療事務部・診療情報管理室 臨床研修室	5階	5N病棟:脳神経外科、泌尿器科、形成外科、皮膚科、麻酔科、歯科口腔外科
	2階	多目的ホール・理事長室・医局・会議室	4階	4N病棟:外科(消化器、乳腺・内分泌、一般)、呼吸器外科
	1階	事務局 会議室	3階	3N病棟:救急病床(全科)、HCU 外科(消化器、一般)、心臓血管外科
	地下	更衣室 機械室	2階	外来(小児科、婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科) 検査(生理、生化学、細菌) 衝撃波破碎室 外来化学療法室、医療社会活動室
		1階	外来(外科、呼吸器外科、皮膚科、形成外科、痛みの外来、眼科、脳神経外科、整形外科、心臓血管外科)、ERセンター、売店	
		地下	放射線部(RI/SPECT)、薬剤部(製剤室、TDM室)	

一般財団法人永頼会の由来

永頼とは、書経・大禹謨にある萬世永頼を出典とします。
 これは舜帝が禹の治水の功績を称えて「萬世の後までも永くこのおかげを蒙るであろう」と褒め称えた言葉が出典であります。

帝曰く、愈り。地平ぎ天成り、六府三事充に治まり、萬世永く頼るは、時れ乃の功なり。(書経・大禹謨)

当院も地域住民のためにかくありたいとの願いが込められています。臨床的に全国レベルの治療を目指しています。

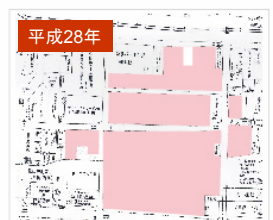
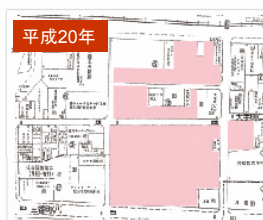
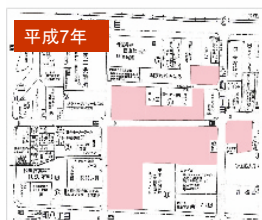
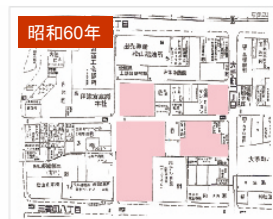
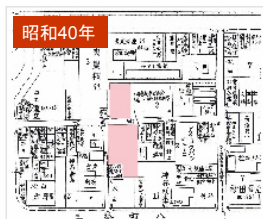
沿革

昭和31年 6月	松山市城西地区の医療機関として松山市民病院(20床内科・外科)発足
昭和32年 8月	愛生分院(結核)80床発足
昭和36年 8月	産婦人科新設 診療棟・病棟建築(135床)
昭和39年 6月	救急病院の指定を受ける
昭和39年11月	財団法人永頼会設立
昭和41年 3月	総合病院の指定を受ける
昭和42年 9月	松山中央乳児保育園開設
昭和44年 9月	病棟増築(237床)
昭和49年 7月	新病棟(S棟)完成(503床、鉄筋地下1階地上7階建)
昭和53年12月	管理棟(永頼会館)完成(地下1階地上5階建)
昭和55年 5月	病床数508床
昭和63年10月	特定集中治療管理施設(ICU)の承認を受ける(4床)
平成6年 11月	新病棟(N棟)完成(538床、鉄筋地下1階地上8階建) 管理棟増築完成(永頼会館:地下1階地上5階建)

平成15年 4月	厚生労働省臨床研修病院指定
平成16年 9月	病院機能評価の認定(Ver. 4.0)
平成19年 7月	オーダーリングシステム導入
平成21年 9月	病院機能評価の更新認定(Ver. 6.0)
平成22年 7月	DPC(診断群分類別包括評価)制度導入
平成25年 4月	一般財団法人へ移行 ERセンター(救命救急)開設
平成26年 4月	新南棟(第1期工事)竣工(稼働355床) 電子カルテ導入
平成26年 9月	病院機能評価更新認定(一般病院2 3rdG:Ver.1.0)
平成26年 11月	財団設立50周年
平成27年 7月	新南棟(第2期工事竣工)(432床)完成
平成28年 6月	松山市民病院創立60周年
平成29年 6月	HCU(ハイケアユニット)新設 8床
平成29年 11月	松山リエール保育園 一般保育「えいらいキッズ」 病児保育「アイビー」開園(木造2階)
平成31年 4月	医療社会活動室開設(病院ボランティア活動開始)

地図で見る当院の変遷

…松山市民病院



理念

1. 松山市民病院は、地域住民のために存在する
2. 松山市民病院は、高度急性期医療を目指す
3. 松山市民病院は、思いやりの医療をもって地域社会に貢献する

基本方針

1. 地域のニーズに応える誠実な医療
2. 説明と同意による人権尊重の医療
3. 快適な環境のもとでの安全な医療
4. 新しい科学的知識と技術による良質な医療
5. 研修・研鑽に努め、学びつづける医療

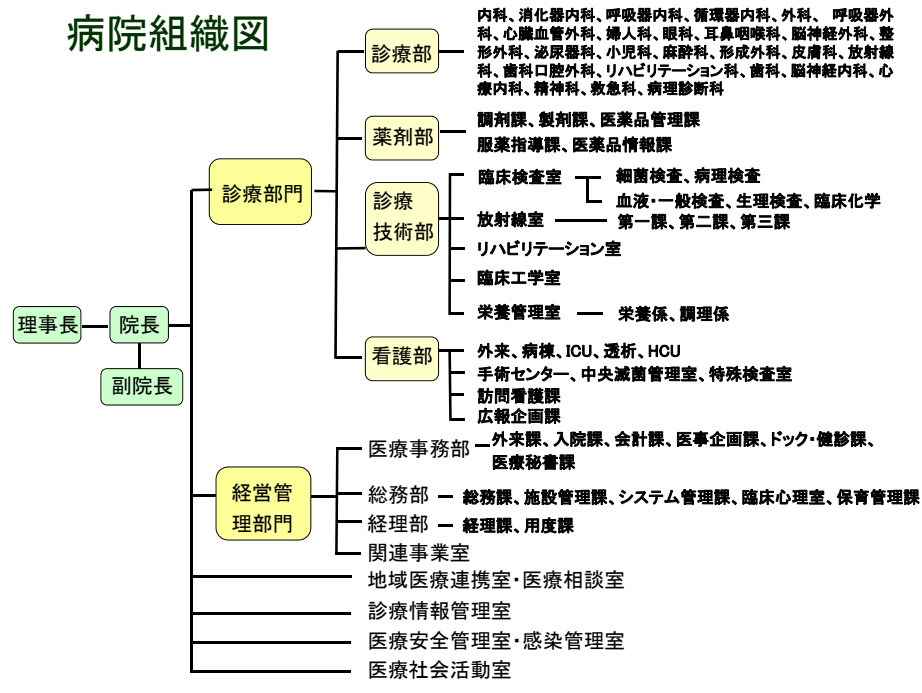
患者の権利尊重

1. 公正で最善の医療を受ける権利
2. 診療にあたって十分な説明と情報開示を受ける権利
3. 治療法の選択について自ら決定する権利
4. 診療情報についてプライバシーの保護を受ける権利
5. 診断・治療法についてセカンドオピニオンを求める権利

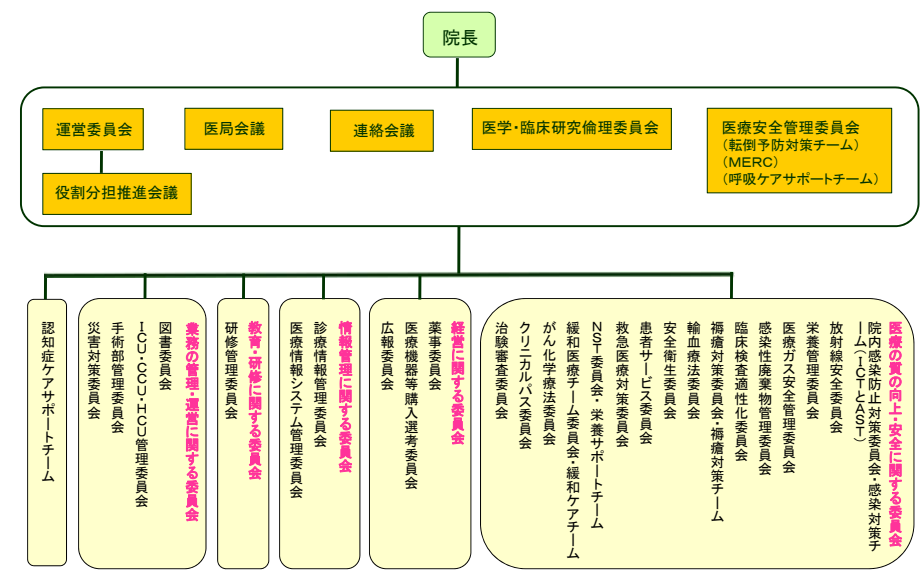
職業倫理

1. 私たちは、常に知識と技術の研鑽に努め、教養を深め人格の陶冶を目指します
2. 私たちは、患者の人格と権利を尊重し、説明と選択・同意に基づく医療を行い、患者のプライバシーを尊重し、守秘義務を遵守します
3. 私たちは、職員相互の連携を図り、安全かつ適切な医療を行います
4. 私たちは、医療を通じて社会の発展に尽くすとともに、関係法令を遵守します

病院組織図



院内会議・委員会(チーム)組織図



診療科及び医師数

常勤 92名 (令和1年7月1日)

- 内科
- 泌尿器科
- 消化器内科
- 小児科
- 呼吸器内科
- 麻酔科
- 循環器内科
- 形成外科
- 腎臓内科
- 皮膚科
- 脳神経内科
- 放射線科
- 外科
- 歯科・口腔外科
- 呼吸器外科
- リハビリテーション科
- 心臓血管外科
- 心療内科
- 婦人科
- 精神科
- 眼科
- 病理診断科
- 耳鼻咽喉科
- 救急科
- 脳神経外科
- 整形外科

内科・消化器内科・臨床研修科	
呼吸器内科・循環器内科・腎臓内科	38名
外科・呼吸器外科	15名
脳神経外科	2名
整形外科	6名
心臓血管外科	2名
泌尿器科	4名
小児科	3名
眼科	3名
耳鼻咽喉科	2名
皮膚科	1名
形成外科	2名
麻酔科	3名
放射線科	3名
歯科・口腔外科	3名
病理部	1名
臨床検査室	1名
救急科	1名
脳神経内科	1名
リハビリテーション科	1名

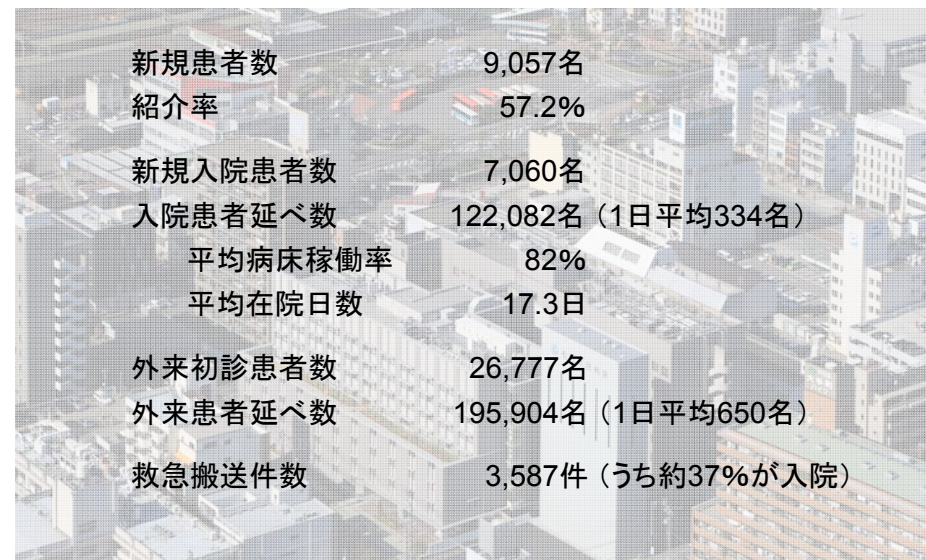
学会認定施設一覧 1 / 2

日本内科学会認定教育病院	日本ペインクリニック専門医指定研修施設
日本循環器学会循環器専門医研修施設	日本消化器病学会認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設	日本糖尿病学会認定教育施設
日本老年医学会認定施設	日本血液学会認定血液研修施設
日本高血圧学会専門医認定施設	日本肥満学会認定肥満症専門病院
日本プライマリ・ケア学会認定研修施設	日本透析医学会認定教育関連施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	マンモグラフィ検診施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本乳癌学会認定施設	日本IVR学会認定専門医修練施設
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設	日本呼吸器学会関連施設
呼吸器外科専門医認定機構関連認定施設	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構関連施設	日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設
ステントグラフト実施施設(胸部)	ステントグラフト実施施設(腹部)

学会認定施設一覧 2 / 2

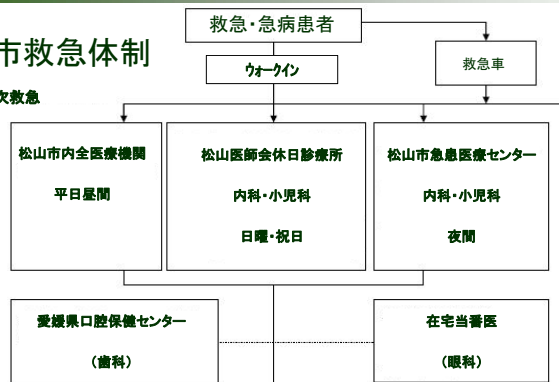
日本脳卒中学会認定研修教育病院	日本脳神経外科学会専門医研修プログラム連携施設
日本泌尿器科学会認定専門医教育施設	日本整形外科学会専門(認定)医制度研修施設
日本眼科学会認定専門医制度研修施設	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本放射線学会認定放射線科専門医修練機関	日本形成外科学会認定施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設	日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設
日本臨床細胞学会認定施設	JCNT日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定実地修練認定教育施設	日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
日本病院薬剤師会プレアボイド報告施設	日本脳ドック学会認定施設
日本甲状腺学会専門医施設	日本救急医学会救急科専門医指定施設
エキスパンダー実施施設	

病院実績 (平成30年)



松山市救急体制

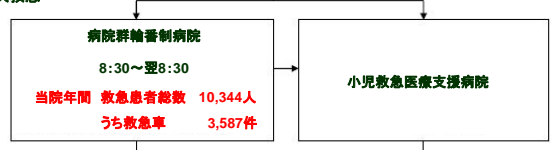
一次救急



8日に1度、救急当番日を担う

- A 梶浦病院、生協病院、浦屋病院
- B 松山市民病院
- C 済生会松山病院
- D 愛媛医療センター、笠置記念病院
- E 平成脳外科、野本記念病院
- F 松山赤十字病院
- G 奥島病院、渡辺病院
- H 南松山病院、松山城東病院

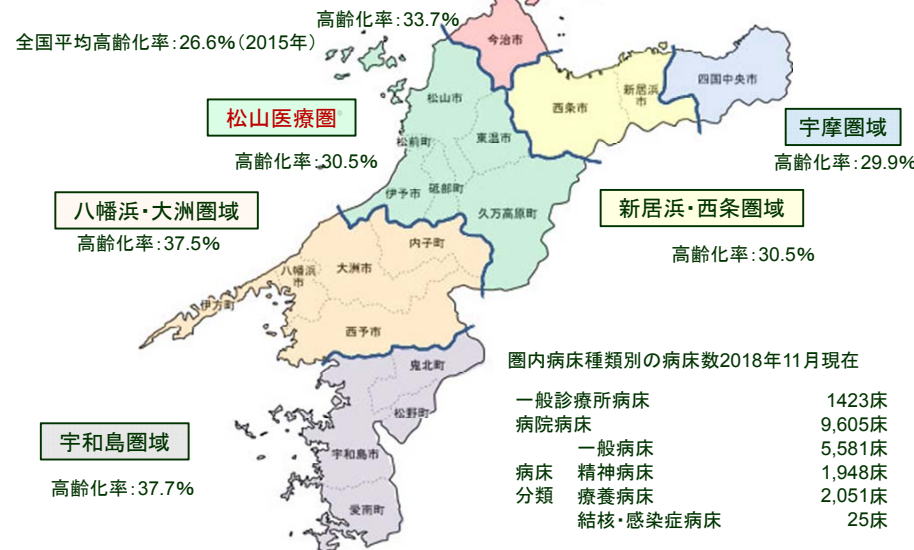
二次救急



三次救急

愛媛県立中央病院
救命救急センター

愛媛県 二次医療圏





病院実績 (平成30年)

- 入院患者数 [延数] 122,082名
- 外来患者数 [延数] 195,904名
[1日平均] 650名
- 救急患者総数 10,344名
- 剖検数 2例

1回/8日松山市の救急医療輪番制で救急患者の受け入れを行っています。

2018年度 入院上位:MDC6

- 肺炎等 314名
- 狭心症、慢性虚血性心疾患 245名
- 小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む) 236名
- 結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 194名
- 白内障、水晶体の疾患 181名
- 脳梗塞 169名
- 誤嚥性肺炎 156名
- 心不全 147名
- 胃の悪性腫瘍 143名
- 肺の悪性腫瘍 141名

2018年度 入院上位:Kcode

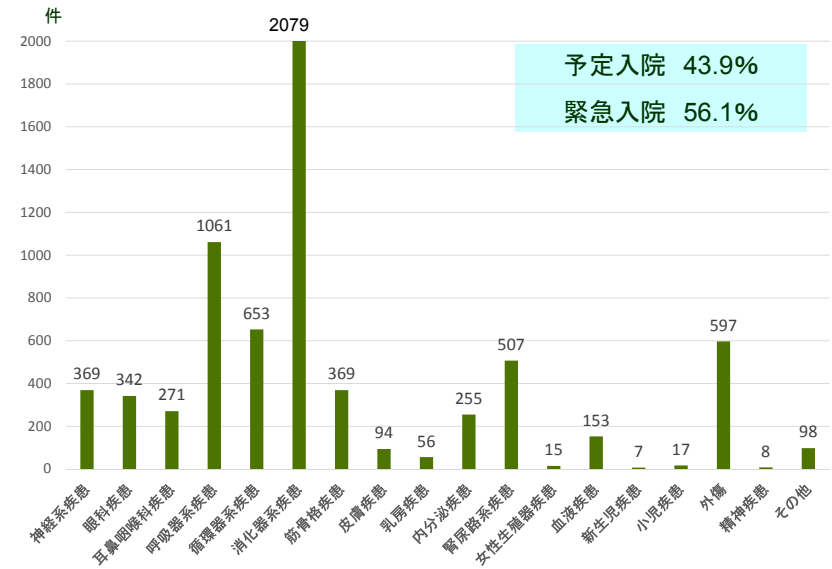
- 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(直径2センチメートル未満)241件
- 水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他)178件
- 眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)129件
- 腹腔鏡下胆嚢摘出術104件
- 骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿103件
- 内視鏡的胆道ステント留置術95件
- 鼠径ヘルニア手術75件
- 経皮的冠動脈ステント留置術(その他)70件
- 内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの65件
- 対外衝撃波腎・尿管結石破碎術(一連につき)62件

手術件数-入院者- (平成30年)

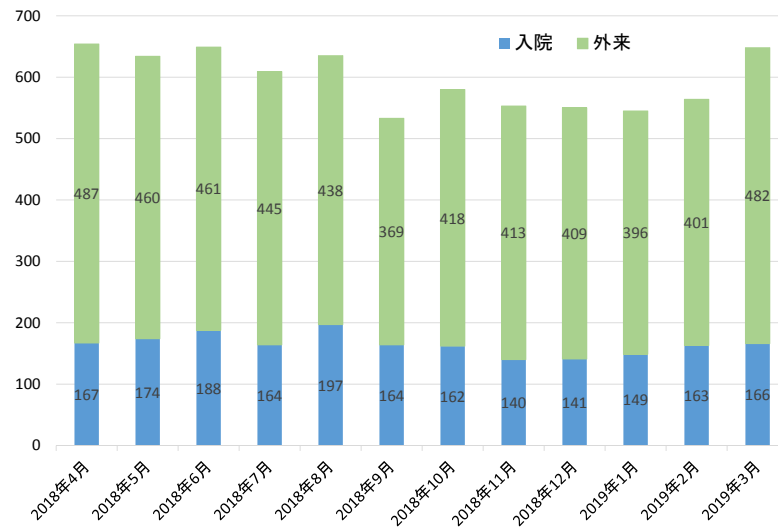
総手術件数 4,378件

整形外科	1143件	循環器内科	226件
外科	742件	心臓血管外科	190件
消化器内科	587件	呼吸器外科	128件
形成外科	328件	脳神経外科	79件
眼科	289件	麻酔科・救急科	16件
泌尿器科	282件	歯科・歯科口腔外科	2件
耳鼻咽喉科	228件	その他	31件

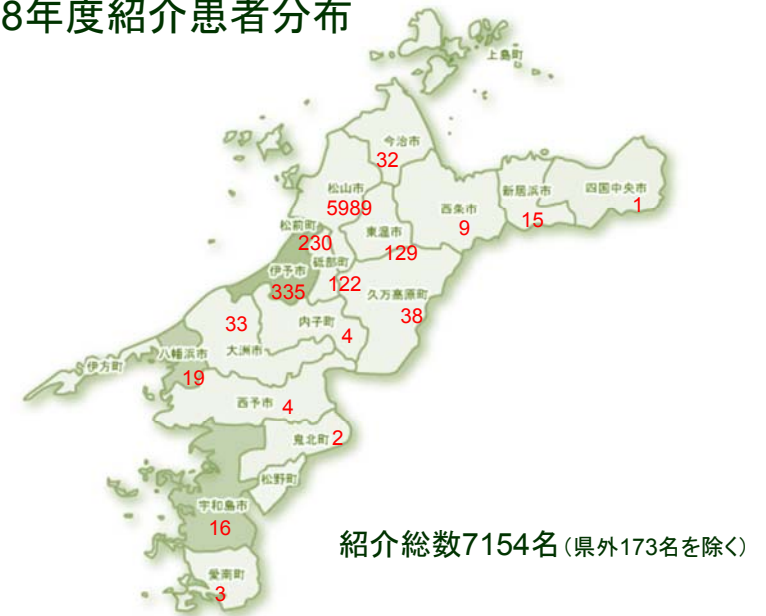
2018年度 入院診療疾患構成



地域連携 紹介患者数推移 2018年度(全科)



2018年度紹介患者分布



2018年度紹介患者診療科別内訳

消化器内科	1045	呼吸器内科	340	腎臓内科	94
整形外科	891	泌尿器科	285	心臓血管外科	89
循環器内科	571	耳鼻咽喉科	262	神経内科	53
外科	510	歯科口腔外科	226	婦人科	20
脳神経外科	492	皮膚科	225	救急科	19
放射線科	474	眼科	157	麻酔科	7
小児科	386	血液内科	137	心療内科	1
糖尿病・内分泌科	380	呼吸器外科	124		
形成外科	366				



卒後臨床研修

初期研修医の人数推移

※基幹型+愛媛大学協力型、済生会松山病院(小児科研修協力施設)

研修年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
1年目(人)	2+0	3+4	4+1	4+4	5+3	6+7	4+5	5+5	6+4
計	2	7	5	8	8	13	9	10	10
2年目(人)	1+3	2+6	3+5	4+2	4+1	5+3	6+1	4+0	5+3
計	4	8	8	6	5	8	7	4	8
研修医人数	6	15	13	14	13	21	16	14	18

当院が目指す病院像

設立の精神

市民による市民のための病院
萬世永頼

末永く地域に頼りにされる病院であり続ける



病院理念

存在意義(社会に提供する価値)

地域住民のために存在する
高度急性期医療を目指す
思いやりの医療

経営の姿勢(経営を行う上で重んじること)

地域住民から信頼され愛される医療機関
地域に密着し開かれた施設
専門性の高い急性期医療を提供する施設
奉仕の精神、あらゆる世代の住民への医療行為
地域の災害・救急医療体制への積極的参加

行動規範(経営者・従業員の行動指針、心得)

誠実・思いやり・安全配慮
人権尊重
研修・研鑽に努め、学び続ける
良質な医療提供

経営ビジョン

地域社会でのポジション等対外的評価

松山医療圏の中核病院としての評価
設立約60年の実績
救急医療への積極的取り組みの評価

事業運営の将来像

新しい医療に積極的に取り組み、高度な医療の提供を行う
救急・急性期医療・がん・周産期等総合的医療の提供
地域社会への貢献

組織形態・組織と人の関係

トップダウンとボトムアップの関係
技術・知識を高め、組織に還元できる人材の育成
役職者研修と人事考課制度
学習研鑽に励む人材へ応援のできる組織
ワーク・ライフ・バランスのとれた組織

当院の運営方針検討表

現状の問題点と課題	対策・検討
地域医療圏での棲み分け 診療方針の明確化 特徴ある医療の提供	医療・介護施設を含めた、地域連携の強化 救急体制の強化 予防医療の強化
医師及び看護師の確保 事業計画の達成 外来及び入院患者数の減少	職場環境の整備 医局や各職場間の連携緊密化 魅力ある組織作り、福利厚生充実
経営体制の基盤整備と経営原資の確保 診療収入伸び率の鈍化と経費増加	分析データ活用強化 PDCAサイクル・BSCによる評価 経費削減、収益改善
人材育成と教育システム 人事制度改定	人事考課制度導入 教育制度確立、資格取得の援助 採用基準の見直し
組織の硬直化 業務分析 業務の標準化、効率化	組織編制の見直し 業務の電子化促進 業務内容・手順の見直し
病院設備・医療機器の経年劣化 更新サイクルの長期化	施設のリノベーション 医療機器更新 設備の補修・更新

令和元年度 松山市民病院中期経営計画

	運営方針	重点施策	スケジュール		
			元年度	2年度	3年度
診療体制	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療圏における当院のポジションの明確化(コモンディーズ、コモンインジャーリー) 診療体制に必要な人材確保に繋がる環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 地域中核病院、救急医療機関としての役割と体制整備 地域医療連携機能の強化 臨床研修医・専攻医の安定的確保 大学、がんセンター等との人材の協働・交流活動 			
内部プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 機能的な経営組織の構築 職員の参画意識の高揚 IT機能の拡充 業務プロセスの改革 人材を成長させる人事諸制度の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 職場環境の改善実施 医療行政対応機能の強化 経営企画部門の充実 システム管理部門の強化 IT化の拡充による業務改善への取り組み 医療費自動精算機の導入 人事考課制度の構築 資格取得の推進・援助とその評価 病院ボランティアの募集 			
将来展望	<ul style="list-style-type: none"> 多様な病院機能を探求・深化する投資計画 総合診療機能の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ダベンチ導入計画 療護センターの委託病床(NASVA)の受け入れ 産科の再開を検討 			

病院スローガン

- 平成22年 「意識改革から 具体的改善へ」
- 平成23年 「協働と前進」
- 平成24年 「連携と充実」
- 平成25年 「信頼と実践」
- 平成26年 「変革と育成」
- 平成27年 「伝達と継承」
- 平成28年 「共有、理解、行動」



平成29年

「ビジョン、ミッション、リノベーション」

■ 意味

地域の信頼に応える医療のあるべき姿・未来像(vision)を描き求められる使命・任務(mission)を果たし、新たな価値を付ける改造・改革(renovation)に取り組む

■ 具体的取り組み

- ✓ HCU(ハイケアユニット)の開設
- ✓ 松山リエール保育園
(病児保育を加えた院内・地域枠保育所)の新設・拡充
- ✓ 病院ホームページの充実化による情報発信



松山リエール保育園

- 平成28年度 企業主導型保育事業の実施により、院内保育所を増築
- 開所 平成29年11月1日



外観:木造2階建ての建物
木のぬくもりを感じながら過ごせる

一般保育「えいらいキッズ」に病児保育「アイビー」を併設
※ 院内保育所ではあるが、地域の方々も利用可能である。



病児保育「アイビー」(左)と一般保育「えいらいキッズ」(右)は別々の入口になっており、お子さんの動線が変わることはない。



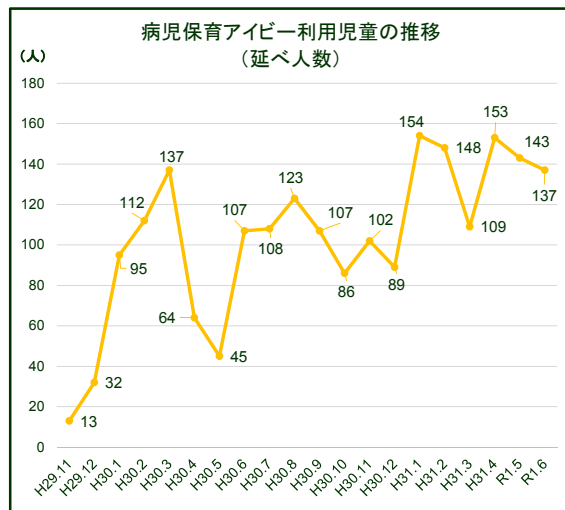
2階は約146㎡の「地域交流室」となっており、読み聞かせの会や研修会等が開催されている。



園舎北側には園庭を設けており、充実した設備環境が整っている。

松山リエール保育園児童数

一般保育えいらいキッズ 児童数 (令和元年 7月1日時点)	
0歳	6名(Drの子ども2名含む)
1歳	15名(Drの子ども1名含む)
2歳	15名(Drの子ども2名含む)
3歳	5名(Drの子ども1名含む)
4歳	6名(Drの子ども1名含む)
5歳	2名(Drの子ども1名含む)
計	49名(Drの子ども8名含む)



平成30年

ハードからソフトへ

- キーワードは育成、成長、貢献 -

■ 意味

全ての職員にキャリアアップできる道筋と研修機会を提供し、次世代の人材を育成するしくみを再構築しながら資格取得や院内外での研修、研究発表などの経験を積み、業務の質・モチベーションの向上や部下育成による自己成長の中から、チーム、組織、そして地域社会への貢献につなげる。

■ 具体的取り組み

- ✓ 3テスラMRI導入、RI/SPECT装置の更新
- ✓ 心房細動に対するアブレーション治療を開始
- ✓ 学会・研究会などでの多職種協働での演題発表



平成31年・令和元年

「地域社会とともに歩む医療
—キーワードは環境、機能、活動—」

■ 意味

病院環境を整え、医療機能を高めながら連携・交流・協働などの活動の輪を広げることで、地域社会とともに歩む医療を推し進める

■ 具体的取り組み

- ✓ 病院ボランティア活動の募集
- ✓ 訪問リハビリテーションの実施計画
- ✓ 認知症サポートチーム(DST)の活動開始
- ✓ 病院医療機能評価の受審



よろしくお願い致します

